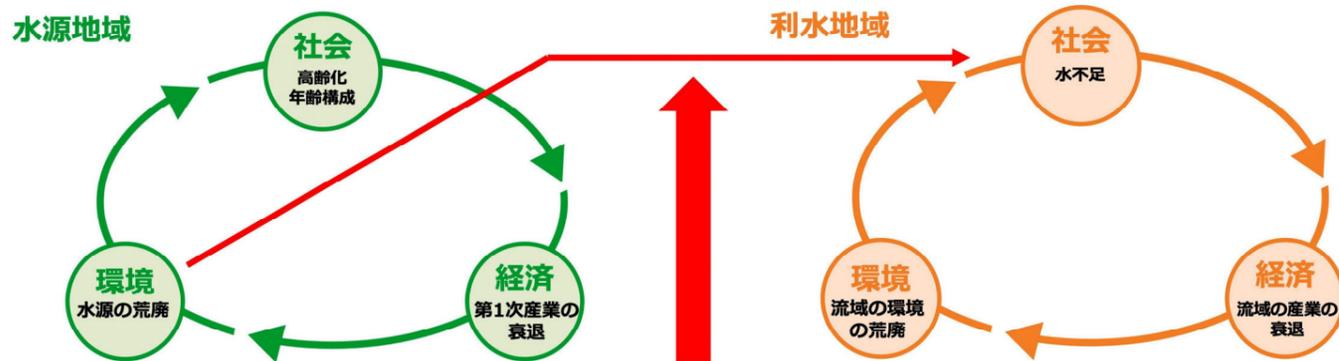




SDGs 推進に向けた取り組み

流域連携を通じた持続可能な
水源の保全・涵養を実現する中間支援組織
「グリーンアクセラレーター」構築事業



水源域の衰退が、
利水域の持続可能性を
毀損する
lose - loseな状態



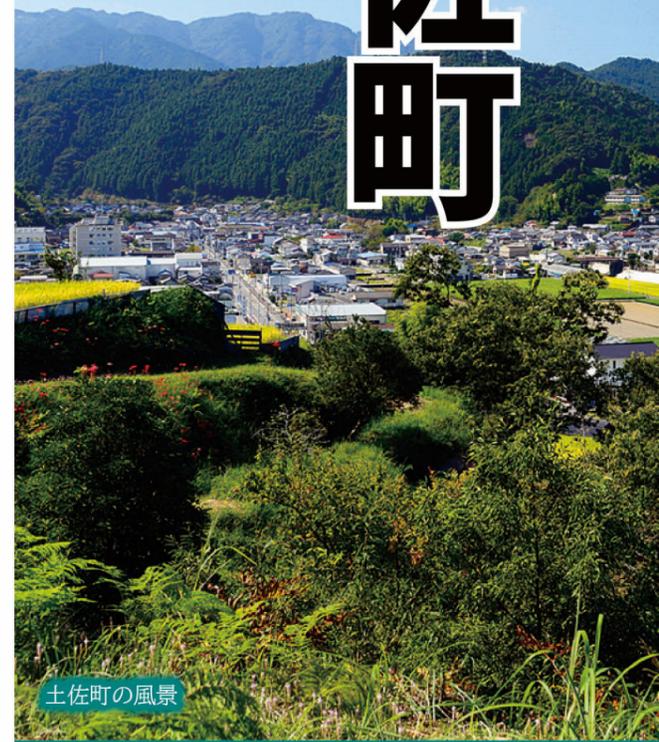
水源と利水の協働が、
双方の持続可能性を
高めよう
win - winな状態



3 本山市
4 高松市

地域特性と課題

14 土佐町



土佐町の風景

土佐町
人口（令和2年国勢調査）：3753人
面積（参考）：212.13平方キロメートル

連携都市
高知県本山市
人口（令和2年国勢調査）：3261人
面積（参考）：134.22平方キロメートル

香川県高松市
人口（令和2年国勢調査）：41万7496人
面積（参考）：375.42平方キロメートル



本事業は高知県土佐町（代表）、同本山市、香川県高松市の吉野川流域1市2町の
広域連携モデル事業である。

1市2町による広域
モデル事業は、「水源域
（上流域：土佐町、本山市
等）と利水域（下流域：高
松市等）」「流域」の自治
体が連携し、持続可能な
水源の保全及び涵養を实
現を目指す取り組みであ
る。（後述参照）

《土佐町》
土佐町は四国の中央部、
吉野川の現流域に位置す
る山間の町である。町の
中心部には、西日本最大

級の多目的ダム「早明浦
ダム」が所在する。いわば
「四国の水がめ」である。
平均年間降水量2700
mmの多雨の街であり、近
年では「水で活きる」をコ
ンセプトとした街づくり
も行ってきた。

町の基幹産業は第1次
産業で標高差のある地形
や昼夜の寒暖差を活かし
た農業が行われている。
また、高知のみに生息す
る和牛「土佐あか牛」の最
大産地である。

《本山市》
本山市は、四国産地の
中央部吉野川上流域に位
置する。町の南部を国道
439号線が東西に走っ
ており、北は愛媛県境、
南は高知県南国市及び香
美市、西は本事業で連携
する土佐町と隣接してい
る。

基幹産業は農畜林業で、
第1次産業のうち農業に
おいては、水稲、畜産、野
菜、椎茸等の基幹作物を
中心に、林業との複合経
営がおこなわれている。

《高松市》
高松市は、香川県の県
庁所在地で四国の北東部
香川県のほぼ中央に位置
する。香川県の県域のほ
ぼ20%に相当する面積を
有し豊かな自然と便利な
都市機能が融合したコン
パクトな街である。

産業別就業構造では、
第3次産業の就業者数が
74%を占めており、古く
から四国の玄関口として
企業の支社や支店、官公
庁の出入機関、高校・大
学等が集積されている。

interview



代表自治体の
土佐町役場企画推進課
課長補佐（企画担当）
兼 SDGs 推進室長
尾崎 康隆さん

SDGsに向けた土佐町、高知県本山町、香川県高松市の連携による取り組み

1市2町の関係

早明浦ダムを中心に、土佐町・本山町は水源域、高松市は利水域の関係にあります。

水源域（土佐町・本山町）においては、水源の保全と産業としての林業や木材関連産業の振興に取り組んでいます。これら産業の振興のためには、若い世代の担い手の確保や、彼らがそうした産業に安定的に従事するために、成長性のある産業としていく必要があります。利水域には、人口や産業が集積しています。

一方で、気候変動に伴い干ばつと極地的豪雨の増加が予想されており、利水域が持続可能であるためには、現時点から水源の保全・涵養に向けて取り組みが必要があります。

このようなことから、早明浦ダムの水源域の「土佐町」「本山町」と利水域の「高松市」の利害が一致し、連携した事業を通じた3つの同時実現を目指すこととしました。

- ① 水源の保全・涵養
- ② 山林の活用、関連産業の創出
- ③ 地域の脱炭素

これらを実現するための方法として、中間支援組織「グリーンアクセラレーター（仮称）」を構築します。この組織は「水源の保全・涵養に資する林業及び山林関連産業の振興」に向け人材育成、必要な資金調達・投資の取り組みを行っていきます。

長期的な視点として、山林の持つ多面的機能を「可視化」し、水源地域の暮らしの持続可能性を高めることを目指します。

モデル事業応募のきっかけ

水源地域側においては、過疎や高齢化が進行しています。その影響で、特に1次産業の衰退が著しい状況で、担い手不足が進行しています。林業は地域の基幹産業でもあるため、今から課題解決に取り組む必要があります。利水域にある高松市は、地域の産業や暮らし

のために水の安定確保が必要不可欠となっています。そのため、高松市において、水の基本計画の策定や過水時の備えを進めています。

山林の荒廃は水のリスクにつながります。土佐町は、こういったことが定量的に把握できるシミュレーションモデルを過去2年間にわたって作成しています。これらの取り組みは、都市地域と連携することでお互いの強みや価値を活かせると考えています。お互いにとって持続可能な環境を作るため応募しました。

利水域との調整

早明浦ダムの建設当時、早明浦の上流下流の自治体による「水源の里連絡協議会」がありました。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」がモットーとなっていました。長期にわたって開催されてきましたが、ダムの完成から間もなく50年を迎える中で、活動が停滞してきた面もあったかもしれ

ません。

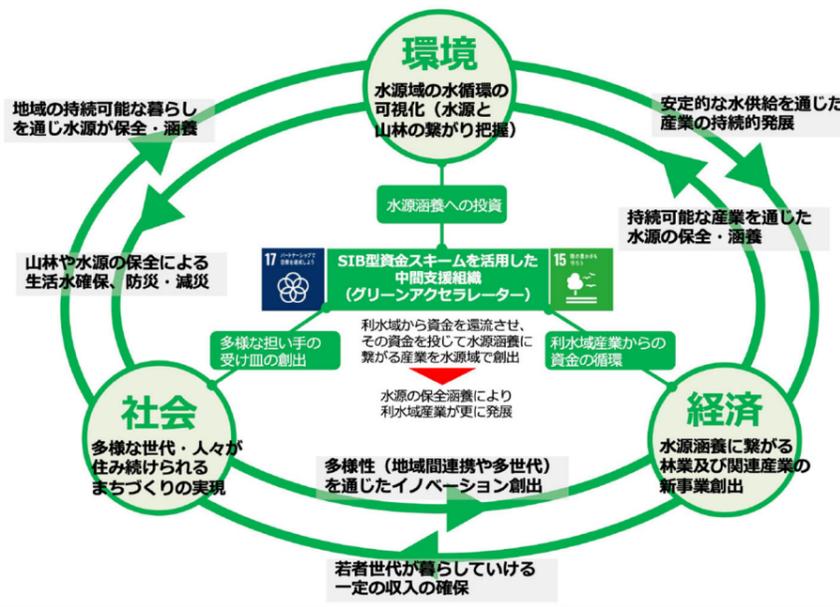
一般的に水の需要地と供給地は互いに協力する意識があっても、実際には円滑に連携できていないことがあります。その背景の一つに、水を守る取り組みを実施したことによる投資対効果が、数値として把握できにくいことが挙げられます。そこで、土佐町は、それらを定量的に評価できる仕組みを構築し、取り組みの成果に応じた連動支払いを可能とする枠組みを構築しています。

今後の展開

中間支援組織「グリーンアクセラレーター」は、資金の自律的好循環につながる、水源の涵養に寄与する新産業の創出や、投資、担い手の人材確保及び育成を目的としています。この構築で「山林」を軸にした水源保全・涵養、脱炭素に資する委託事業を外部支援のもと進めています。

3自治体で事業を進める財団等の法人を作り、

■ 自律的好循環の具体化に向けた事業イメージ



この法人は脱炭素や生物多様性、山林の持続的な経営管理などを一体的に実現する事業を手掛けていきます。今後、法人を立ち上げ、必要な人材を配置しながら事業に取り組みたいと考えています。

将来的には、3自治体のみならず、水源域側・利水域側双方で、より広い範囲へと広げていくことを予定しています。

吉野川の源流から河口までをつなげていく事業になります。流域全体での連携を進めて行きたいと考えています。